

## 『創価大学50年史』編纂の開始について

神 立 孝 一

1971年4月に開学した本学は、2021年に創立50周年を迎えることになる。その節目にあたり、『創価大学50年史』の編纂を実施するはこびとなった。その推進のため、本年度に田代康則理事長を中心とした「創価大学50年史編纂委員会」が組織され、その下に「編集委員会」がつくられた。具体的な編集事業が開始されたのである。

本研究所の事業の大きな柱のひとつが、「大学アーカイブズ」に置かれており、この大学史編纂に深く関わっていくことは、当然のことといえる。そのために、大学の各所で作成された諸資料を収集し、保存管理してきたのだ。それらの資料が、活用されることになるのは望外の喜びといえる。

そもそも私立大学には創立の理念が存在し、その実現のための人材育成という使命が与えられているはずである。その理念がいかんして形成され受け継がれてきたのかを明らかにすることも、大学の歴史にとっては重要な一面である。それゆえに、多くの私立大学では50年、80年、100年という区切りの良い創立年に大学史を刊行している。各大学の歴史を表明することは、大学自体が社会に対してどのような責任を果たしてきたのかを説明することでもある。

ところで本学の50年史の場合は、単に大学創立から50年の間の事実を綴るだけでは、こと足りない。「創価教育の父」である牧口常三郎先生、そして本年没後50周年を迎えた戸田城聖先生の足跡、さらには創立者池田大作先生の教育・文化・平和といった多方面にわたる活動とその思想・哲学にふれないわけにはいかない。それが本学の理念を構築し、大学の基盤となっているからである。これらを抜きにして本学の建学の理念を語ることは不可能なのである。そのために、われわれは、創立者のそうしたさまざまな業績に関する研究を行い、牧口先生・戸田先生に関する資料をできる限り収集してきたのである。ここに本研究所の使命があり、開設以来、積極的に研究を展開してきた意味がある。

資料というものはおもしろいもので、想像以上に説得力を持つ。ご本人が書かれた著作物や書簡類、さらには編集発行したさまざまな刊行物。それらを取り巻いていた時代を反映する資料。これらを通じて、創立の理念、建学の精神をいろいろな観点から照射し、浮かび上がらせていくことが今後の重要な作業となるはずである。

50年史の編纂事業は、創価大学創立の意義をよりいっそう明白にしていくものであることを信じる。多くの方々の夢と希望を担って建設された本学の使命をかみしめながら、この事業にじっくりと取り組んでいきたい。